

スタッフKが教えてくれたこと

私の職業で日頃から大切にしていることのひとつが、「当店で働くアルバイトの夢や目標を後押しすること」です。私はセブンイレブンを始めて25年になります。これまでに100名以上のアルバイトが在籍してきました。主に大学生や専門学校生、時には高校生もいます。現在働いている子たちの中にも、社会福祉士、理学療法士、料理人、美容師など、それぞれの夢に向かって努力している姿があります。

その中でも、ひととき印象深い元アルバイトのK君についてお話します。K君は約20年前、彼が25歳くらいの時にアルバイトとして採用しました。ファミリーマートでの勤務経験があったこともあり、仕事も接客も申し分なく、シフトリーダーにしたいほどの人材でした。ただ、彼には「ディズニーランドで働きたい」という夢があり、それに向けて勉強や準備をしていると聞いていたので、「いつかは旅立っていくな」と思っていました。ある日、「彼女と秋田に旅行行くから、休みちょうだい」と言われ、3日ほど休みをあげました。ところが戻ってきたK君の元気がなく、「そんなに疲れたのか？」と尋ねると、「実は彼女と別れたんよ」と。さらに「もう一つ言っている？その彼女って、実は男なんだ」と突然カミングアウトされたのです。私はそれまで彼を完全に「野郎」としてしか見ていなかったもので、心底驚き、かなりちぐはぐな対応をしてしまったと思います。その時の私はゲイに対して少なからず偏見を持っていたと思います。頭に浮かんだのはホモオダホモオですから、これからあいつをどうゆうふうにあつかったらいいんだべ、と思いながら、家に帰って嫁に話すと、嫁は驚きつつも「ゲイだろうがなんだろうが、KはKだべ」とひとこと。私はその言葉にハッとさせられ、「なるほど、そうだよな」と深く納得しました。その後K君は、パートのおばちゃんたちにも次々とカミングアウトしていきましたが、皆が自然に受け入れている姿に、女性たちの懐の深さを感じたものでした。

そして彼はディズニーランドのキャスト採用試験を受け、見事合格。夢を叶えました。それから、10年くらい経って「山形に帰ってきた」と連絡がありました。今なにをしているのか聞いたところ、「七日町で有名なオカマバーの菌弾子さんの弟子をしまった」とのこと。そっちの道で生きるのか。と思いました。彼はディズニーで培った接客で一躍人気者になったようです。その後しばらくして、「自分の店を出したから、マネージャー（嫁）と遊びに来て」と連絡がありました。セブンの勉強会が山形であった際、私と嫁で、Kの店に立ち寄りしました。ゲイバーではあるものの、明るく楽しい雰囲気のお店で、特徴的なのは、お酒の瓶の隣にテングが並んでいることくらいでしょうか。一昨年には、幹事を勤めていたので、クラブ会長と山形でロータリーの研修会があり、その懇親会の後に、二次会としてKの店を訪ねました。「ロータリーの人もあるよ」と聞いたので、さまざまな情報を仕入れながら、楽しく飲むことができました。

研修会では「DEI」について学びました。このKの話に当てはめると、D＝ダイバーシティ（多様性）、LGBTQの人をE＝エクイティ（公平性）、差別することなくI＝インクルージョン（包摂）「ここにいていいんだ」と思えるよう受

け入れる、となるなどおもいました。これを実現するためには「寛容さ」が必要ですが、妻の「KはKだべ」という言葉こそ、その答えだと私は思っています。これが、偏見を正す、自己改革になったと思います。20年経って改めて理解しました。

ちなみに、トランプ大統領は「性別は男か女しかない。DEIはやらない」と明言しており、最近ではロータリーのメッセージからもDEIの言葉が消えたと、高島クラブ直前会長から聞きました。それでも私は、ロータリーでこのDEIを含め、多くのことを学ぶことができました。そして、元スタッフKから学んだことに感謝しています。